

地方独立行政法人鳥取県産業技術センター評価委員会議事録概要

- 会議の名称：第13回地方独立行政法人鳥取県産業技術センター評価委員会
- 開催の日時：平成22年10月22日（金） 午後2時～午後4時
- 開催の場所：鳥取県庁第21会議室（第2庁舎9階）
- 出席者氏名：

【委員】

区分	氏名	所属名	役職名
委員長	副井 裕	国立大学法人鳥取大学	学長補佐
委員	谷口 義晴	日本セラミック株式会社	代表取締役社長
委員	辻 智子	日本水産株式会社	生活機能科学研究所長
委員	中村 宗和	国立大学法人鳥取大学	理事・名誉教授
委員	和木 幸雄	三洋電機コンシューマエレクトロニクス株式会社	監査役

【地方独立行政法人鳥取県産業技術センター】

氏名	役職名
山本 誠	企画管理部長
山田 強	企画管理部企画室長
濱本 修	企画管理部総務室長補佐
石破 徹	企画管理部企画室長補佐

【事務局（鳥取県）】

氏名	役職名
岡村 整諮	商工労働部産業振興総室長
広瀬 龍一	商工労働部産業振興総室産学金官連携室長
小谷 博之	商工労働部産業振興総室産学金官連携室研究開発担当副主幹

○会議の概要：

◆審議事項

- (1) 次期中期目標案について
- (2) その他

1. 次期中期目標案について

資料1～4に沿って事務局説明ののち、意見交換及び質疑を行った。

委員	委員発言	意見に対する回答、対応
副井委員長		○資料1①の見出しを、「総括」から「全体的な進捗状況に対する意見」に換え、概括的にまとめた意見を記載した。（事務局） ○②の文中に「OJTの観点から」の字句を追記。OJTの観点でテーマ設定することにより、人材育成につながるという意味で入れている。
中村委員	③の文中の「産業人材育成戦略」について。人材育成の戦略はそう簡単にできるものではないが、今期で作成した戦略を来期に反映すると書いて大丈夫か。	○戦略自体の策定は、大丈夫だと思う。
和木委員	「項目別評価に転記するシステムの検討を行うべき」とあるが、実用化研究評価委員会の審議が、地独法で定める評価委員会に位置するのか疑問がある。	○研究テーマは、センターが独自に委員会を設け、外部有識者による審議を経て決定。学識経験者が審議した内容に、あえて評価委員会が点数までつけなくても、仕組みを見直してはどうかとの御意見と受けとめている。

中村委員	各研究テーマの成果について、実用化委員会で専門家が詳細に評価したものを、私たちが重複して評価するのかがどうか明確にし、権威ある専門家による評価結果をきちんと生かしてほしい。	
辻委員	<p>○実用化・シーズ評価委員会の評価をみて、センターの目標が研究技術の質的向上へと軸が切られている印象を受けた。</p> <p>○実用化研究評価委員には、県内有名企業の社長や創業者がなるケースや大学の先生がなるケースがある。経営者の視点で見る人と、技術の価値を見極めて将来性を判断できる人のバランスを考えて構成すべき。</p>	<p>○評価委員会は、運営方法等について御意見をいただくもの。シーズや実用化の評価の仕組みをつくり、研究の質を高めていく手法について評価をいただきたい。</p> <p>○「転記するシステムの検討」という表現だと、県がその仕掛けを産業技術センターに指示する格好になる。シーズと実用化の評価委員会に問題点があるのであれば、そこを指摘していただくほうがよいかもしれない。</p>
副井委員長	<p>○これは非常に重たいのですが、議会に出される類いのものでしょうか。</p> <p>○中村先生の御意見の関連で、自動的にではなく、ワンクッション置いた方がよいのではないか。</p>	○内部ではありますが、知事には報告します。
中村委員	「専門家の評価結果を生かす方策を検討する」という程度にすべきでは。	○わかりました。
副井委員長	高度な企画力と判断力が求められるテーマにOJTの観点が入ると、レベルが低くなりませんか。	○レベルを上げるためには、Off-JTの方が効果的な場合が結構あります。人材育成の観点でテーマの高度化につながるのであれば不要だと思う。
谷口委員	<p>次世代のものづくり人材育成事業で、マシニングセンターの講習会や3DのCAD研修で、数値目標に対して250%の達成状況だから、5ランクの4といわれると疑問に感じる。数値目標の設定は、質を非常に下げてしまったと思います。</p> <p>3番に「クレーム減少などへの貢献度など質的向上に関する指標等の検討を希望する」とあるが、クオリティーは数値化できず、質が伴わなければ何にもならない。数値は下がったが質はよくなったというような評価基準もない。</p> <p>数値目標を計上したがために、質が落ちていないかということ非常に危惧いたします。</p>	<p>(産業技術センター)</p> <ul style="list-style-type: none"> 人材育成におけるOJTとは、センターの職員の人材育成、能力開発を指している。御指摘のマシニングセンターには、県内企業の産業人材を育てるというセンターの内部側と作業側の2つの側面があり、OJTの観点は、センターの職員をどう育てるかという記述だと思います。 マシニングセンターのオペレーター研修は、企業の具体的な技術課題の解決のため、1つの題材について実地に沿った形で実施している。質的な面では、アンケート等で満足度を評価し、不満足との回答があれば、迅速に対応している。単なる機器操作のオペレーション研修であれば、機械製造のメーカーの方から教えていただくのが一番だが、そういう単純な操作研修ではなく、産業人材の育成の部分だと考えている。
谷口委員	<p>アンケートによる満足度は、「満足」「少し満足」の数ではなく、その人たちの実力が本当に備わったかどうかを評価すべき。</p> <p>数値目標をつくったことで、本当の評価というものが埋没されていないか懸念している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 谷口委員御指摘の内容は、質的向上という部分でまとめた表現にしたい。 センターが独自に設置している委員会等との重複の解消について表現を考えたい。また、産業人材育成戦略の策定主体がわかりにくいという意見もありましたので、工夫したい。

		<ul style="list-style-type: none"> 資料2「次期中期目標の全文」については本日の委員会の議論を踏まえ、議案に提案する原案とさせていただきたい。
和木委員	<ul style="list-style-type: none"> 中期目標の項目の順は、センターが力を入れるウエイトの順番という意味合いがあるのでしょうか。 前回、4つの活動状況のウエイトを選択集中し、2期目はどう人材や資産を充てるのか、計画に明確に出してほしいとお願いした。 	<ul style="list-style-type: none"> 項目の順は、センターの力の入れ方の順番という意味ではない。法律に、中期目標に掲げるべき項目が順番に並べて書いてあり、基本的にはその順番どおりに入れています。
和木委員	中期目標に、例えば、成長戦略の「観光ビジネス」などを上げることは、問題ないのですか。	<ul style="list-style-type: none"> 問題ないですが、ちょっと広げ過ぎかもしれないですね。
和木委員	ただ逆に、我々企業側からは環境・エネルギー、特にEVは相当ハードルが高い。どういうことに目標設定するのか、やる場合の金はどこから出たのか評価しなければいけない。要は投資に対しての効果が大事で、個人の人材育成だけならば、それは自前でやってくださいと言いたい。	<p>(岡村総室長)</p> <p>今回、新たな国の政策を盛り込んで数値目標を修正したが、さらに企業から、素材材、基盤的産業をものづくりの観点で高度化するというテーマを盛り込むべきという意見もあった。基本的には、EVやバイオ等、今後チャレンジする+αの部分しか載せていない。まちづくりなどを含め11項目。それらを盛り込むことで、その産業のGDPを上げられると考えている。</p>
和木委員	雇用の場ができてないと、幾ら人材育成をやっても意味がない。	そこは経済成長戦略の中でも議論が深まっていない。観光サービスについては、少し書き方を考えないといけない。
中村委員	安倍内閣のときも、科学技術基本計画に同じような重点戦略が並んで、最後に基盤技術として分析技術が出てきた。しかし、全てのことを書き出すと戦略ではなくなる。批判はあっても鳥取県らしいものに絞る勇気が必要。戦略部門をふやせばふやすほど総花的になる。	確かに観光ビジネスで、全くものづくりの技術が必要ないかという点、出てくる可能性はあります。
中村委員	<p>ものづくりといえば製造業で、第1次産業の農林業は含まれていない。しかし、農林業は米をつくり加工する、まさにものづくりです。それを流通に乗せ、輸出すると第3次産業です。その意味で、米は第1次産業、ものづくりは第2次産業で流通は考えないというのは昔の考え方。観光だからものづくりは関係ないという考えはやめた方がいいのではないかと思います。</p> <p>今や農業は第6次産業と言っている。1次産業と2次産業を加えて3次産業、合わせて6次産業だと言う。広く物事をとらえて、個人的には観光もものづくりに入れてもいいと思います。</p>	
和木委員	ここでライフ・イノベーションの部分は、相当広い分野があります。鳥取県ならではのものをチョイスできるような分野があるのでしょうか。	<p>(岡村総室長)</p> <p>岡山県だと、医療機器はライフ・イノベーションに入れています。残念ながら鳥取県はそういう分野の企業がありませんが、岡山などは集積がある。本県の場合は、機能性食品</p>

		や創薬の方をイメージしています。県の業種特性によってとらえ方が違います。
谷口委員	資料の3ページ、鳥取県の特性として、下から2番目にサッカーのことが書いてありますが。	サッカーは、J2に上がって県外からの誘客がかなりふえました。その集客による宿泊など付加価値が上がるだろうという意味で載せています。あくまでもサッカービジネスとしてとらえているということです。
辻委員	経済成長戦略のバイオ・食品関連産業の雇用1,900名という計画の中で、このコア技術は染色体を使って機能性を評価する研究施設みたいなものですか。この仕事に対する産業技術センターのかかわり方というのは、どんなことになるのですか。	直接的に関わるのではなく、そのシーズを生かして、機能性評価による新たな成分開発や、その成分を使った食品開発という流れで食品開発研究所につながります。現実にもう既にかかわりながら研究開発を進めようとしています。
辻委員	実際には県内の企業がやるのですか。その機械は産業技術センターが開発するわけですか。機械の販売主体は、鳥取県内の企業になるわけですか。	<ul style="list-style-type: none"> 共同研究という形で、今かかわっているのは県内企業さんです。 まだ販売には至ってないが、開発段階では県内企業が関与しており、食品開発には県西部を中心とした企業と共同開発の予定。
辻委員	県内企業で、なぜ1,900人の雇用が生まれるのですか。今ある企業以外に多くの会社が生まれることを設定しているわけですか。	県外のほか、地場企業の新分野や増設も含めている。確かに、売り上げに上がらないと、開発ではGDPは上がってきません。
谷口委員	いつが終期ですか。	10年後の2020年です。 国の成長戦略の民主党政権での目標はGDP成長率、年平均3%に対して、県のGDPベースは1%に設定しています。輸出系企業の場合、量がふえても単価が下がるため、GDPが上がらない。その中で+2%を上げる答えが出せずにいるというのが現状です。
中村委員	高速道路の需要予測みたいに、絵にかいた餅はいくらでも描けます。	これは、せめてこの分野は伸ばそうという姿勢です。
谷口委員	少子化で、間違いなく雇用条件が厳しくなるのに、これだけ採用されたらありがたいのですが、逆にそのことで非常に熾烈な労働者の奪い合いが始まるでしょうね。	我々も、企業立地などの助成金で雇用増という条件を出していますが、こういう構造転換の部分を含めたところで成長戦略とみなして、集中的に支援していく手法に変えていこうと考えているところです。
和木委員	もっと細かい戦略がないと、余りにもリスクがあり過ぎるのではないか。	今の緊急経済対策の流れは、100の規制を完全に緩和する方向です。例えば、今回初めて、低炭素の設備投資に国が直接2分の1補助するなど環境エネルギー一面だけで徹底的に補助する。従来型とは違う手法で施策を打ち出していますので、県としてもそういう部分にセンシティブになっておく必要がある。
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> 現在の案で3ページの(4)の広報活動は少し格上げしてはどうか。 広報は全体の項目に関係する。(4)の中に入れると埋もれてしまう。 大学でも、広報は大変重要な項目に位置づけられているのです。 	<p>(広瀬室長)</p> <ul style="list-style-type: none"> 確かに広報は全般にわたるといってもありますので、検討したい。 <p>改めて事務局で作成したものは皆様方に見ていただく。</p>
辻委員	評価委員を入替えた場合、中期計画に関与しなかった人では正しく評価できないと思うので、中期計画に関与でき	

	<p>るような仕組みにするべき。</p> <p>実用化評価委員と基礎研究の評価委員を重複した人が1、2人入れば、より実態をつかんだ評価ができるのでは。</p> <p>例えば、文部科学省の評価委員などでも、各テーマの上の会議の人が必ず入っている。そういう形もとった方が表面的ではない評価ができるのではないか。</p> <p>センターにおける研究の高度化や実用化の部分について評価が必要になったとき、実態に合わないことを評価しているかもしれないという不安が常にあのような気がします。御検討下さい。</p>	
和木委員	<p>4名のうちの例えば2名ずつずらししていくような方法だと、バトンタッチがしやすい。ぜひ検討してください。</p>	<p>(岡村総室長)</p> <p>・専門性が高い部分については一律ではないというふうに私も思っていますので、知事の意見も聞いてみたい。</p>
副井委員長	<p>13回の評価委員会を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。</p>	